

美術科 学習指導案

日 時 令和3年5月26日(水)

第5校時 13:30～14:20

対 象 第2学年A組男子19名

女子14名

学校名 港区立御成門中学校

授業者 主任教諭 川田 渚

場 所 4階 美術室

1 単元名

「陶板タイルの細密画」(絵画・陶芸)

2 単元の目標

- ・身近なものを見つめ、感じ取った特徴をどのようにあらわしたいか考えて、材料や用具を工夫して表現する。
- ・身近なものを描いた作品を鑑賞し、さまざまな表現の工夫を感じ取る。

3 単元の評価基準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、身近なものを全体のイメージで捉えることを理解している。 ②自分のあらわしたいものに合った材料や用具を選択し、意図に応じて工夫してあらわしている。	①身近なものを見つめ、感じ取った特徴や、ものに託した自分の思いなどをもとに主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 ②友達の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、身近なものに対する作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	①美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく身近なものを描く表現の学習活動に取り組もうとしている。 ②美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく身近なものを描いた作品からさまざまな表現の工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 指導観

(1) 単元観

- 身近なものがもつ美しさやよさに関心をもち、身近なものを見つめ、感じ取った特徴や、ものに託した自分の思いなどをもとに主題を生み出す。
- 主題をもとに形や色、用具の使い方などの構想を練る。
- 構図や明暗、色のバランスなどを工夫して制作する。
- 完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。

(2) 生徒観

美術や鑑賞に対して関心の高い生徒が多いクラスである。特に作品制作に取り組む際は、集中して取り組める。しかし、絵画に対して苦手意識を持っている生徒も多く、なかなか作業がはかどらない生徒も数名いる。陶板タイルにスクラッチする際は、通常の『白い紙に黒い線で描く』のではなく、『黒い面に白く線を描いて表現する』という表現方法に慣れない生徒が多く、本番で失敗してしまうことが予想されるため、やり直しのきくペイントソフトを利用することで表現方法に慣れ、明暗やハーフトーンを意識した作品にしていく。

(3) 教材観

頭の中で絵を考えて描くのではなく、目の前にあるものや写真をじっくり観察し、詳しく・細かく質感（そのものの持っている感じ）なども細密画で表現して

いく。針やニードルという道具を使ってひっかいたり削ったりするスクラッチという技法で、線を重ねていくことで表現する。広い面積を真っ白には削らない

こと（ハーフトーンの美しさを出す）

(4) ICT の活用について

初めての細密画、陶板タイルという題材ということで興味・関心も高まるが、活動に臨む際の不安感も大きい。したがって活動を小刻みに、多く作例を持ち出すことによって進めることが望ましい。

絵画に対して苦手意識をもった生徒には、丁寧に補助線を引くことと空間のとらえ方を丁寧に教えることで正確に模写できることを提案する。

本時の学習では、タブレットのペイント 3D というアプリケーションと学習クラウド「まなびポケット」にあるアプリケーション「スクールタクト」を活用し指導を行う。動画で制作の過程をみせることで制作の参考になるようにしたい。

5 単元の指導計画と評価計画(8時間扱い)

時	目標	主たる学習活動	評価規準(評価方法)
第1時	補助線を正しく使い、題材の形をとらえる。	・練習用紙を使用し、定規を使って補助線を引く方法を知る。	技：プリント 態表：プリント・観察 態鑑：学習カード
第2時 第3時	毛並みを意識し、一本一本の線を丁寧に描く	・補助線を応用しながら、線の重ね合わせでハーフトーンを表現する。 ・陰影や質感を表現できるように工夫する。	技：プリント 態表：プリント・観察 態鑑：学習カード
第4時 (本時)	・白い線で陰影や質感を表現する	・ペイント3Dを使い、実際のスクラッチの練習をする。	技：スクールタクト作品 態表：スクールタクト・観察
第5時 第6時 第7時	・下描きをもとに一本一本の線を丁寧にスクラッチし、ハーフトーンで質感を表現する	・陶板タイルにニードルを使ってスクラッチしていく。	技：作品 態表：作品・観察 態鑑：学習カード
第8時	クラスメイトの作品の良さを知る	・スクールタクトを使用し、クラスメイトの作品を観賞する。	態表：スクールタクト・観察 態鑑：スクールタクト・学習カード

6 本時の目標

- ・ペイントソフトを使用し、白い線の重ね合わせでハーフトーンを表現する。
- ・自分の作品や作業を振り返って、自己の課題を見つけ、次からの作品制作に生かすことができる。

7 本時の展開 (全7時間中の第2時間)

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 10分	○今日の授業の内容を確認する ○本時の目標を確認する。 ・タッチペンの配布・充電 ○作業を動画で確認する ○配布された課題をペイント3Dで立ち上げ、タッチペンを使って作品のスクラッチ練習に取り組む	・本時目標を、ホワイトボードを使用して明示する。 ・まなびポケットに配布された動画を提示し、また、いつでも見られることを伝える。	態表：観察
展開 30分	○スクラッチ練習に取り組む ・使用するペンのツールや大きさを指示する。 ・実際に教師が描く様子をプロジェクタに投影しながら見本で見せる。 ・実際に自分で描いてみる。 ○	・黒い画面に白い線で描くことの難しさに注意する。 ・見本の動画を見て参考にしてもいいということを伝える。	技：作品 態表：作品
まとめ 10分	○作品の保存 ・作品を自分のフォルダに記録し、さらにその画像をスクールタクトのタクト ○授業の振り返りを行う。 ・本時の授業の振り返りをスクールタクトに入力する。 ○次回の授業内容の確認を行う。 ○挨拶をする。	・スクールタクトを起動させる。 ・次回は自分の下描きを使用して実際に本物のタイルにスクラッチすることを伝える。	態表：スクールタクトの 記述内容

8 本時の評価

- ・細密画にあった表現方法を意図に応じて追求し、創造的に表している (技：作品)
- ・ハーフトーンの美しさを感じ取り、線の重ね合わせなどを考え表現する構想を練っている (思：作品)
- ・自分の作品や作業を振り返って、自己の課題を見つけることができている。

(態：観察・スクールタクト)

9 研究主題にせまるタブレット端末活用の手立て

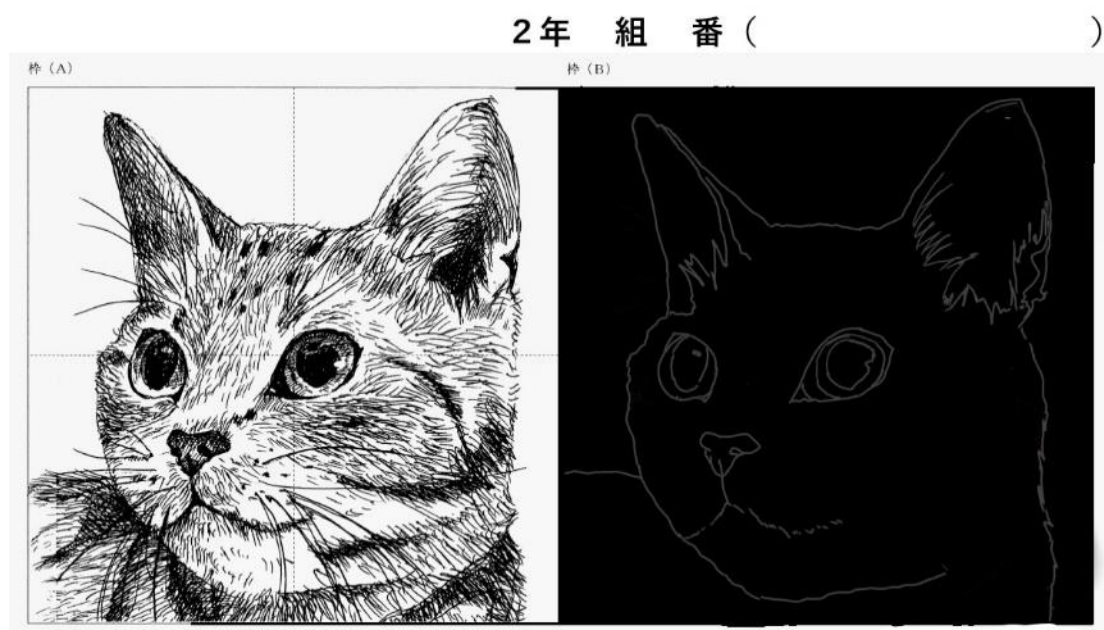
- ・動画機能を使用し、制作過程を見ることで見通しをもった作業を行うことができる。
- ・スクールタクトに一括して作品が記録されることで、クラス内の作品鑑賞に生かすことができる。

10 ICT 機器活用

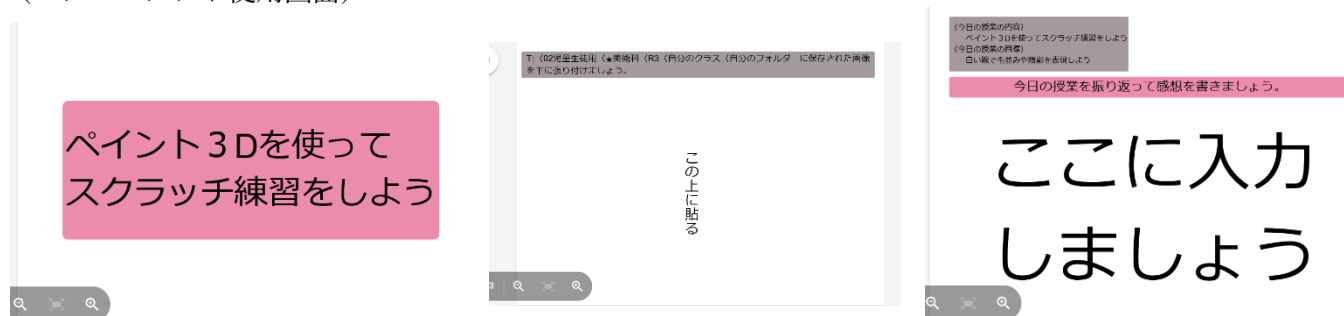
- ・大型テレビ
- ・教師用タブレット
- ・生徒用タブレット
- ・スクールタクト
- ・ペイント 3D

11 参考資料

(ペイント 3D 使用画像)



※展開の場面で使用
(スクールタクト使用画面)



※まとめの場面で使用